

\*この内容は2019年7月30日のイベント開催時のものです。

2019年7月30日

## 信州ソーシャル・イノベーションフォーラム 2019 リレートークレポート



筒井 昭彦

京都市地域企業振興課  
ソーシャルイノベーション創出支援係長



田中 慎

京都市ソーシャルイノベーション研究所  
イノベーションコーディネーター  
田中経営会計事務所 代表

### テーマ 「 行政イノベーション 」

※ 発言内容には個人の見解も含まれています。

京都市役所地域企業振興課の筒井と申します。京都市では、約8年前に大室先生との出会いをきっかけにソーシャル・イノベーションの取組をスタートしています。初期の頃は勉強会、小規模なセミナー、先進事例のスタディツアーなどを進めていました。こうした活動を通じて仲間づくり、仲間探しをしていました。

#### ソーシャル・ビジネスを地域がサポート

そして平成26年12月に「京都市ソーシャル・イノベーション・クラスター構想」を発表しました。京都市を、ソーシャル・イノベーションやソーシャル・ビジネスにどんどん取り組んでいける地域にしていきたいという構想です。この構想のポイントは、クラスター化を目指しているということです。単純にソーシャル・ビジネスに取り組んでいる企業の支援だけでなく、ソーシャル・ビジネスに取り組もうとする方々を地域としてサポートし、ソーシャル・ビジネスに取り組みやすい地域にしていきたいという思いで取組を進めています。



京都市の取組について説明(リレートーク)

\*この内容は2019年7月30日のイベント開催時のものです。

「京都市基本構想」という京都市のかなり上位の計画がありますが、このクラスター構想は、京都市基本構想の実現のためのものと位置付けています。クラスター構想は産業セクターの一つの計画ではあるものの、京都市の上位の計画と結びつけることにより、我々が取り組む全ての取組が、京都市のために、京都市が向かっていく方向と合致しているものと位置付けられていると思っています。



SILKの取組について説明(分科会)

クラスター構想の最大の特長としては、「京都市ソーシャルイノベーション研究所」というソーシャル・イノベーション創出のための専門支援機関を外部に設置していることにあります。役所の中にあるとなかなかこうした取組がしにくく、イノベーションが起こりにくいと思いますので、外部に専門機関を設置したというのが大きな特長です。

ここからは、「京都市ソーシャルイノベーション研究所」の取組みを、同研究所の田中から詳しく説明させていただきます。

## 京都市ソーシャルイノベーション研究所(SILK)とは

京都市ソーシャルイノベーション研究所(SILK)について説明をさせていただきます。皆さんは「ソーシャル・イノベーションて何?」と聞いていらっしゃるかと思います。色んな自治体さんから視察を受けますが、皆さんからは、分かっているような、分かっていないような反応を頂きます。私なりの解釈は「急激な環境変化の中で地域・社会の営みが続く為に既にある資源を活かした従来の発想を超えた取り組み」です。これは本日登壇の他の皆さんのプレゼンを聞いていただいても分かっていただけるかと思います。私たちが京都市と具体的に何をしているのか、二つの視点でお話します。

まずはチームとして私たちが求められている仕事は何なのかをご紹介します。まず一つ目、大きな事業としては「これからの1000年を紡ぐ企業認定」といって、これからの社会を作る企業の支援をしています。私たちSILKが考えるソーシャル・イノベーションの取組をされている企業を京都市で認定し、個別に支援をしています。支援企業には本日の登壇者「坂ノ途中」や「カンブライト」さんも認定していますので、イメージがしやすいかと思います。



SILKの取組について説明(分科会)

そして、そういった企業を支援する為には、個人の支援者も高いマインドが必要とされます。「過去にない仕事を生む変化の担い手の育成」という事で「イノベーションキュレーター塾」という一年間のプログラムの塾を開催しています。様々な業界から参加していただいています、4年間で70名の卒塾生を輩出しています。

\*この内容は2019年7月30日のイベント開催時のものです。

私たちSILKがチームとして求められているのは、「既存の枠組みにとらわれない“会社や個人の思い”をくみ取りながら、そういった企業や個人の方々との関係性をうまく紡いでいく」という事が大きな一つの仕事になります。

## SILK コーディネーターの取り組み

もう一点として、私たちのチームがどういうチームなのか。色んなバックグラウンドを持ったコーディネーターが5人所属しています。コーディネーターは週一日から三日でそれぞれ自身の仕事と兼業で在席しており、まちづくりのアドバイザーや中小企業診断士、私は税理士ですがプロジェクトマネージャーなどです。

コーディネーターのそれぞれの特性を活かすためにいつも言われているのが「コーディネーターの関心に基づいて自由に行動してほしい」という事です。私たち自身も自分たちの取り組むプロジェクトに関して「ワクワクするのか」というのを非常に重要視しています。私たち自身が興味関心に乗じて自由にSILKのビジョンに沿って動いていくことによって、繋がりが広がり続けているというのをこの4年感じています。

一人のコーディネーターが「商店街にできた百坪の空き地をどうするか」という相談を受けたことから、地域の賑わいの為に色んな活動をするプロジェクト「新大宮広場」という取り組みをしています。また去年は、京都市から「働き方改革支援をイノベティブな感じでやってほしい」とごっこりした依頼を頂いたことから「働き方改革のチャレンジプログラム」という事業を行いました。私たちが一からプロジェクトを組み、個別コンサルティング、集合型の研修のほか、中小企業7社と他の経営者や従業員、私たちの三者交えて働き方について対話をする、対話と実践を繰り返すというプロジェクトを行いました。これは全国で初めて取り組まれたプログラムかと思っています。



SILK コーディネーターの取組について説明(分科会)

## バックオフィスの方々向けのイベント「SOU-MU NIGHT」

私自身のプロジェクトでもありますが、税理士として、起業支援している行政の方たちに沢山お会いするんですが、「起業家を増やす」取り組みは全国的にも行われています。起業家を増やすという事は、サッカーでいうところのフォワードを増やしているばかり、という状況です。そしてディフェンスをしてくれるバックオフィスの人たちにこれから求められるスキルは、IT化の進展に伴って高度化していきます。そこで、そんなバックオフィスの方たちに社会との繋がりをたくさん作って貰うために「SOU-MU NIGHT」という、バックオフィスの方々向けの面白可笑しいイベントを開催しました。これはかなり好評をいただいて、東京でも開催させていただきました。長野でもこういった取り組みができればなと思っています。

## 行政と民間がパートナーとして目指す未来



参加者からの相談を受ける(分科会)

行政の良さは公益性だと思いますが、私たちSILKの良さはスピードやチャレンジするところが特徴だと思います。そういったお互いの良さをうまく掛け合わせるということが、行政の皆さんが取り組む際にも非常に重要なことだと思います。私たちが働いて思うのが、個別相談の「件数」のようなアウトプットの評価がやはり多いのかなと思いますが、そうじゃなくて行政と民間がパートナーとして目指す未来のプロセスを一緒に共有できたらいいなと思っています。

皆さんにとってのソーシャル・イノベーションは「急激に進む“人口減少”の中で“信州の”地域の営みが続く為」に既にある資源、それはIT技術の活用はもちろんですが、そういう資源を活かした、「従来の発想を超えた取り組み」が必要になるんじゃないかと思っています。

私自身は県立大学のソーシャル・イノベーション創出センターのアドバイザーメンバーもさせていただいていますので、またみなさんのお力になれたらと思います。以上です。ありがとうございました。

京都市・SILK は  
SDGs の全ての目標達成に向けて取り組んでいます



(京都市のSDGsの取組みについて <https://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000235821.html>)



筒井 昭彦

京都市地域企業振興課  
ソーシャルイノベーション創出支援係長  
<https://www.city.kyoto.lg.jp/>



田中 慎

京都市ソーシャルイノベーション研究所  
イノベーションコーディネーター  
田中経営会計事務所 代表  
<http://www.tnktax.com/>